

地域看護の問題点

金川 克子*

Key words : 地域看護, 公衆衛生看護, 公衆衛生学, 保健婦

地域看護を論ずる時には、当面しているいくつかの問題点がある。例えば、地域看護とは何か、地域看護と公衆衛生看護とはどう違うのか、地域看護学の学問的基盤は何か、地域看護の活動に何が求められているか、地域看護は何をめざしているか、等である。

これらの問題に関して、筆者なりの考えを述べる。

I 地域看護とは

地域看護は、地域で生活している人々の健康やQOLの向上を目指した活動である。この活動は、貧しい病人の訪問看護活動に由来しており、これを19世紀中頃に一つの地域（イギリスのリバプール）で組織的な活動にしたのがウィリアム・ラスボーンとされている。

その背景にはナイチンゲールがすでに看護の領域に、病院看護（Hospital Nursing）とともに地域看護（District Nursing）を位置づけ、それは貧しい病人をその家庭で看護することであり、一人の看護婦が十分行き届く範囲内のできる限り多くの患者を受け持つとした考えであった。さらに、ナイチンゲールは病人の看護と同様に、家庭での健康を守る看護へと看護の範囲を拡大させている。

一方、同様にイギリスでは19世紀の中頃には高い教育を受けた女性が環境衛生の改善や健康教育、保健指導を行う活動（Health Visiting）もみられる。

また、ロスアンゼルス市が市の職員として看護婦を初めて雇い入れたのもこの時期とされている。

地域看護活動の発展過程の詳細は関連の著書に譲るが、今日でいう保健所や市町村保健センター等行政サイドからの公衆衛生看護活動と、在宅の療養者や要介護高齢者を対象にした在宅ケアあるいは訪問看護活動の萌芽はこのようにすでに19世紀中頃にみられている。

なお、地域での看護活動はこれまでは、公衆衛生看護活動とよばれることが多かったが、最近では地域看護や在宅ケアの表現を使う場合が多くなっており、多くの看護系大学でも地域看護学の名称が使われている。

ところで、公衆衛生看護活動の名称が使われていた昭和30年頃には、市町村では共同保健計画のもとに、保健所と市町村がタイアップし、大学の公衆衛生関連の講座や専門家から技術的指導を受け、結核や成人病の発見から保健指導に至る一貫した健康管理活動が意欲的に取り組まれ始めた時期であったように思う。筆者がはじめて就職した大学の公衆衛生学教室でもそのような取組みがおこなわれていた。もちろん保健所や市町村の公衆衛生関係者の熱心な活動の結果でもあったが、地域の人々にとっても、異常の早期発見や健康状況の確認のために集団健康診査を利用し、その効果を受けていたと感じた。このような活動と連動して、保健婦の活動も、住民に集団健康診査の受診をすすめたり、検診結果の報告を行い、どのような日常生活を過ごしたらよいのかや疾病予防に関する保健指導等にかかなりの時間を費やしていたように思われる。

近年は、介護を必要とする高齢者や在宅で療養生活を希望する病人、また、入院治療の段階がす

* 東京大学医学部健康科学・看護学科地域看護学
連絡先：〒113 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学医学部健康科学・看護学科地域看護学
金川克子

ぎて在宅で継続療養をした方がよい人等、在宅療養へのニーズや需要が顕在化し、増加してきている。これまでの住民全体を対象に集団的アプローチを中心とした健康管理方式のみでは医療や介護のニーズの高い人に、個別には十分な対応がしきれなくなっている。このような経緯の中で、地域住民全体の健康問題や生活環境を明らかにしながら、個々のニーズの対応へと発展できるように、集団的アプローチを主体とした公衆衛生看護活動に加えて在宅で医療や介護を必要とする人々へのいわゆる個別的アプローチを主体とする訪問看護活動も含めた地域看護活動が要求されるようになってきている。

すなわち、地域看護の活動は地域住民全体の健康レベルの向上を主眼として、個人のケアに還元していく方向と、個人の健康問題やQOLの向上を主眼とした活動を通して、同様の問題を持つ人々を地域の中から明らかにし、地域全体の健康レベルアップにつなげる方向とになっている。

II 地域看護学の体系化の必要性

地域看護の理論と実践は、主に看護学と公衆衛生学を基盤とした領域と考える。もっとも看護学や公衆衛生学の考え方、各々が対象とすべき課題や活動の方向は時代や社会のニーズによって変化しているので、地域看護学独自の体系化が必要と考える。一応地域看護学を看護学と比較して、表1のように考えるものである。

よく引用される定義として、アメリカ看護協会(ANA)では地域看護(Community Health Nursing)とは看護の実践と公衆衛生の実践を統合したものとしており、アメリカ公衆衛生協会(公衆衛生看護部会)は、地域看護(Public Health Nursing)はコミュニティ全体の健康改善のために公衆衛生学の知識体系と専門的な看護理論を統合したものとしている。看護学と公衆衛生学の統合が可能であるかの問題は若干あると思われる。すなわち、個人個人の看護から、予防や健康増進の看護、家族・コミュニティを対象とした看護へと進展している看護学と地域全体や集団的アプローチを主体とした公衆衛生学ではその学問体系に若干の差異があるように感ずる。しかし、個別の視点にたった問題の掘り起こしからであれ、集団の視点からの問題であれ、予防的観点からのアプ

表1 看護学と地域看護学の要素

看護学	地域看護学
人 (person)	人々の集団/コミュニティ (populations/communities)
環境 (environment)	環境 (environment)
健康 (health)	健康 (health)
看護介入 (nurse action)	ケアシステム (care systems design)

ローチは重要であり、対象とした人々の健康問題に関する対処能力(セルフケア能力、家族の力量、コミュニティの力量)が高まるような視点での活動(例えばPrimary Health Care, Health Education, Health Promotion, Community Organization)や、重要な課題を政策に反映させることも重要と考える。

特に、地域で生活している人々の健康や生活の状況を統計的、数量的にとらえることだけではなく、できるだけ身近な所で観察や、インタビューを交えてのフィールドサーベイやEthnographic methodを活用していくことである。

さらに看護学と公衆衛生学を基盤にしつつ関連領域の知識体系も参考に、特徴的な学問体系作りが必要と考える。

III 地域看護の活動に求められているもの

地域での看護活動は、保健所や市町村の保健婦が中心であったが、訪問看護ステーションや医療機関からの訪問看護活動も加わり、総合的な看護活動となってきている。

このような中で、地域で働く保健婦の役割は、地域全体を視野に入れ、そこで生活している人々の健康の維持や向上に向けて、疾病の予防や日常生活への適応が図れるように、個人、家族、地域住民に働きかけたり、そのための条件を整えていくことと思う。

平成5~7年度にかけて、日本看護協会が厚生省の委託をうけて「先駆的保健活動交流推進事業」を行っており、この事業を推進するための小委員会の一つとして、保健活動基盤整備研究小委員会が設置されている。筆者はこの小委員会に加わって、市町村・保健所で保健活動を推進する上で、どのような基盤整備が必要かについての基礎資料

を得ることを目的で、全国の市区町村、保健所の関係者に調査する機会があった。これまでの結果は報告書としてすでに刊行されているが、市区町村長の回答からみると、市区町村の保健婦が現在とっている役割は、「保健活動を推進する中心的役割」、「保健事業全般の実施者」、「地域の健康問題を把握し、保健施策を企画する役割」であると、80%以上の首長さんが認識している。

今後保健婦に最も期待している役割としては、「地域の健康問題を把握し、保健施策を企画する役割」が最も多く、ついで「保健活動推進の中心的役割」、「在宅療養者のケアコーディネーター」の順になっている。市区町村の保健婦長の回答でも、市区町村長の回答と類似しているが、筆者もやはり、保健婦は地域で生活している人々全体を、まず視野において、そこでみられる問題をとらえ、活動の方向を見極めていくことが重要と考える。

また、同上の調査より、保健婦活動を推進していく上で、保健所保健婦自身が努力すべきこととして、保健所の婦長は、「把握した健康問題を行

政施策として、提言できるようにする」、「ケースで関わって感じた問題を地域の健康問題に一般化できるようにする」、「県や国の行政的な動きを把握する」、「技術的な研鑽」、「市町村との連携を強める」が80%以上の回答になっている。

平成9年度より、地域保健法が実施され、市町村と保健所の役割が提示されているが、地域看護の領域で働く保健婦にとっては、やはり地域の健康問題全体を視野に入れた、いわゆる community nursing manager 的役割が大切と感ずる。

(受付 '96. 5. 8)

文 献

- 1) 保健活動基盤整備研究小委員会編集. 平成5年度先駆的保健活動交流推進事業 保健活動の基盤整備に関する調査, 日本看護協会. 1994, 3.
- 2) 保健活動基盤整備研究小委員会編集. 平成6年度先駆的保健活動交流推進事業 保健活動の基盤整備に関する調査, 日本看護協会. 1995, 3.
- 3) Hanchett, E.S. & Clarke, P.N. Nursing Theory and Public Health Science: Is Synthesis Possible? Public Health Nursing 5 (1), 2-6, 1988.